

## 2021年 採集したクリフウセンタケ・オオツガタケと 道の駅で購入したツガタケの外観の比較

小倉 豊史

### 1. 2021年の気候とキノコの発生

今年は、「オオツガタケ」<sup>1)</sup>、「クリフウセンタケ」<sup>2)</sup>と地元の方が呼ぶフウセンタケの仲間の発生が比較的多く、いくつか子実体を見ることができた。この見た目が良く似た2種の外見の比較をおこない識別できないか検討した。

今回、同じ時期に山梨県の道の駅で購入できた「ツガタケ」<sup>3)</sup>も併せて比較した。



写真1 オオツガタケ<sup>1)</sup>

### 2. 書籍・図鑑記載の内容

・原色日本新菌類図鑑(I) (昭和62年6月30日初版発行 保育社)

ニセアブラシメジ P. 229

「旧版原色日本菌類図鑑に図示したオオツガタケは本種である。中部以北ではクリフウセンタケと呼ばれ食用にされたのは本菌であろうと思われる。」

と説明がある。



写真2 クリフウセンタケ<sup>2)</sup>

・山溪カラー名鑑 日本のきのこ 増補改訂新版 (2011年12月25日 初版第1刷発行 山と溪谷社)

ニセアブラシメジ (クリフウセンタケ) P. 251

カサ : 4~8 (10) cm

柄 : 6~10cm×7~11mm

孢子 : 7~9.5 μm×3.5~5 μm

柄の上部に綿毛状のツバとなる。

柄長/カサ径=1.11、1.17、1.89

(P. 251の写真より算出)

柄長/カサ径の多くは1.11, 1.17程度だと思うが、1.89程度の値になるのはそう多く無いと思われる。

オオツガタケ P. 248

カサ : 5~10cm

柄 : 7~15cm

孢子 : 8~10×3~5 μm

### 3. オオツガタケ<sup>1)</sup>とクリフウセンタケ<sup>2)</sup>の外見比較

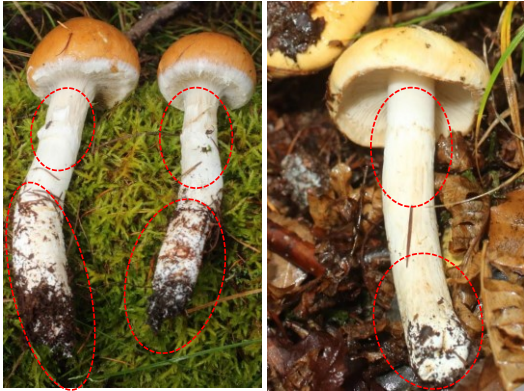


写真3 オオツガタケ・クリフウセンタケの柄の比較

ツバはいずれもフウセンタケの仲間のため綿毛状のものが柄に纏わりついて褐色の胞子がついて着色される。

オオツガタケはそれ以外に、ササクレたような帯状に見える部分が見られる。

※「山溪カラー名鑑 日本のきのこ」P. 248のオオツガタケの写真にも見られる。

オオツガタケ<sup>1)</sup>の柄は、純白と表現しても良いほど白く、カサ下から下に向かって中央付近で僅かに膨らみ、柄中央から下に向かって次第に細まる。

クリフウセンタケ<sup>2)</sup>の柄は白いが、オオツガタケ<sup>1)</sup>に比べれば僅かに黄色が入ったような白色。

カサ下から柄は円柱状で基部に向かい、基部で少し太くなる。

オオツガタケ<sup>1)</sup>のカサは薄い茶色だが、クリフウセンタケ<sup>2)</sup>は黄色がかかった明るい色であることが多いが、写真4のように時間とともにカサの色が濃く変化することがある。

### 4. オツガタケ<sup>1)</sup>とクリフウセンタケ<sup>2)</sup>のヒダの比較

図1はそれぞれのカサの断面写真から起こした図である。リフウセンタケ<sup>2)</sup>はオオツガタケ<sup>1)</sup>に比べヒダが薄く、オオツガタケ<sup>1)</sup>は

ヒダが厚い。

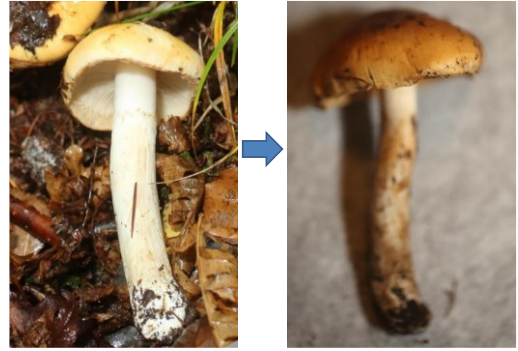


写真4 クリフウセンタケ<sup>2)</sup>の経時変化

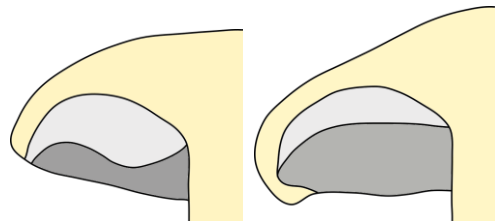


図1 オオツガタケ<sup>1)</sup>左 クリフウセンタケ<sup>2)</sup>右 断面

### 5. ツガタケのネット情報

ツガタケは、「山溪カラー名鑑 日本のきのこ」、原色日本新菌類図鑑(I)にも載っておらず、以前から気になっていたのでネット情報を調べた。

山梨県では「ツガフウセンタケ」もしくは他のフウセンタケと区別せず「フウセンタケ」と呼んでおり、低めの価値の認識とのこと。

静岡県では「ツガタケ」と呼んで、価値のあるきのこ認識されているようだ。

ちなみに、山梨県ではオオツガタケを「ツガタケ」と呼んでいるらしい。

ツガタケは、ニセマンジュウガサのことだという人や、オオカシワギタケだという人がいるようだ。

### 6. 山梨県「道の駅 南きよさと」で購入したツガタケ<sup>3)</sup>



写真5 「道の駅 南きよさと」のツガタケ<sup>3)</sup>

柄がカサ下から中央に向かって太くなり、基部に向かって細まる。カサが大きく、柄が短いキノコの形状。

## 7. ツガタケ<sup>3)</sup>・オオツガタケ<sup>1)</sup>・クリフウセンタケ<sup>2)</sup>の孢子

ツガタケ<sup>3)</sup>の孢子は光学顕微鏡でも大きな凸部が確認でき、長さ7 $\mu$ m程度、幅6 $\mu$ m程度。

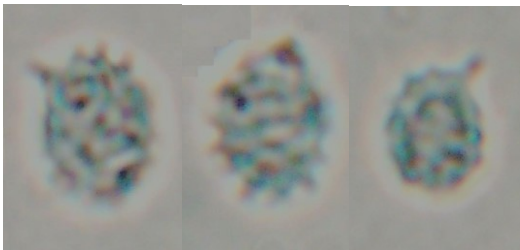


写真6 ツガタケ<sup>3)</sup>孢子

原色日本新菌類図鑑 (I) P. 228 のニセマンジュウガサによれば、孢子は長さ7.5~9.5 $\mu$ m、幅4.5~5 $\mu$ mで、微イボに覆われるか、イボが不明瞭と記載されている。

この記載からすると、「道の駅 南きよさと」購入したツガタケ<sup>3)</sup>とは異なるものと思われる。

また、オオカシワギタケについての情報が手持ちの図鑑にはなく、ネットでの写真を見る限り、カサの上に外被膜の残りの縞状の模様があるようだが、今回のツガタケ<sup>3)</sup>には見られないため、それとも違うのかもしれない。

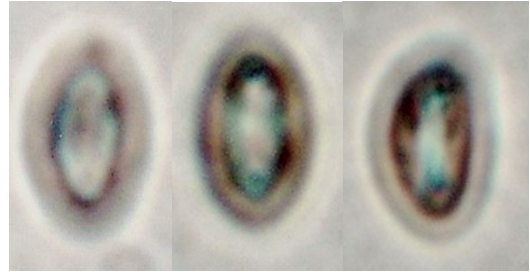


写真7 クリフウセンタケ<sup>2)</sup>孢子

観察した孢子は、長さ8 $\mu$ m程度、幅5 $\mu$ m程度であった。

原色日本新菌類図鑑 (I) P. 229 のニセアブラシメジの説明に「クリフウセンタケであろう」とあり、孢子の大きさは7~9.5 $\mu$ m $\times$ 3.5~5 $\mu$ mとあり紡錘状楕円形で不明瞭な微イボを有するか、ほとんど平滑と記載がある。

顕微鏡撮影技術の問題であるかもしれないが、写真7の真ん中の写真の外周部の黒い影のような部分が「微イボ」であるのかもしれない(詳細確認する場合はSEMが必要か?)。

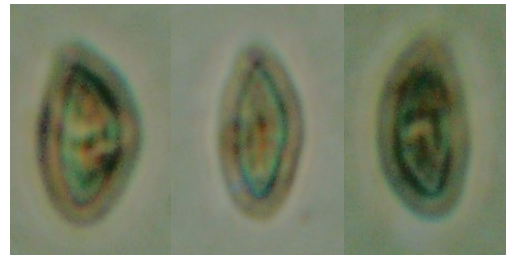


写真8 オオツガタケ<sup>1)</sup>孢子

外観含めて概ね、記載内容と一致すると思われる。

また、写真2と「山溪カラー名鑑 日本のきのこ」P. 250、P. 251の特に下の写真と同様なものと思われる。

先のオオツガタケ<sup>1)</sup>の孢子も顕微鏡にて観察したのが写真7だが、長さ10 $\mu$ m程度、幅6 $\mu$ m程度。原色日本新菌類図鑑 (I) のフウセンタケの孢子の線画には表面に凸部が記載されており、クリフウセンタケも「微イボ」があるかの記載があるが、オオツガタケ

表1 オオツガタケ、クリフウセンタケ、ツガタケの外見の違いまとめ

	オオツガタケ <sup>1)</sup>	クリフウセンタケ <sup>2)</sup>	ツガタケ <sup>3)</sup>
生え方	単生	群生が多い	— (未確認)
傘	茶色	黄色／薄い茶色	茶色
柄 色	純白	白だが僅かに黄色	薄い茶色？
柄 ツバ	帯状	褐色綿毛状	褐色綿毛状
柄 カサ→中央	僅かに膨らむ	円柱	膨らむ
柄 中央→基部	細くなる	基部 少し膨らむ	細くなる
柄長／傘径	1.28～1.44	1.13	0.67
ヒダ	厚い	薄い	厚い (たぶん)

の胞子の情報はない。ただ、クリフウセンタケの顕微鏡写真同様に写真8の左に胞子外周部に黒い影がみられるがこれが「微イボ」なのかもしれない。

胞子の大きさについては、「山溪カラー名鑑 日本のきのこ」に、長さ8～10 $\mu\text{m}$ 、幅3～5 $\mu\text{m}$ とあり、外観の写真含め一致していると思われる。

## 8. まとめと報告時の質疑について

八ヶ岳麓の地元でオオツガタケ<sup>1)</sup>とクリフウセンタケ<sup>2)</sup>と呼ばれる外見の違いについて、個人的に整理をしたものを表1に示す。

参考になる部分があればと思い、2022年1月9日の千葉菌類談話会スライド会で報告した。報告後に幾つかのコメントがあった。

コメント①「本報告中のツガタケ<sup>3)</sup>はツガタケではない」について

→道の駅でツガタケ<sup>3)</sup>として販売していたツガタケは手元の図鑑や参考になる情報がないため、本報告では、一旦、店の呼称を使っている。新たな情報を得てツガタケを確認できることがあれば、改めて見てみたい。

コメント②「クリフウセンはもっと「ずんぐり」した形で、本報告中のクリフウセンタケ<sup>2)</sup>

はクリフウセンタケではない」について

→形状が明らかに異なるとのことなので「山溪カラー名鑑 日本のきのこ」記載のものとも異なるものと思われる。本報告のクリフウセンタケ<sup>2)</sup>は「山溪カラー名鑑 日本のきのこ」を参考にし、地元の意見に従った。同会では、地元で言う「オオツガタケ<sup>1)</sup>」と「クリフウセンタケ<sup>2)</sup>」の外見的の比較、検討し整理した結果を報告した。分類の整理が進み、「山溪カラー名鑑 日本のきのこ」の「クリフウセンタケ」が別の呼称に修正された場合、それにならって読み替えて貰いたい。

コメント③「クリフウセンタケの遺伝子情報とオオツガタケの遺伝子情報は酷似していると聞いたことがある。だから、形状も酷似していると思われる」について

→参考情報ありがとうございます。

備考

- 1)と2)「山溪カラー名鑑 日本のきのこ」と八ヶ岳麓の方の情報によってきのこ種を判断
- 3) 道の駅「南きよさと」販売の名称